

【高等学校部門 金賞作品】

『命の大切さ』

初めて犯罪被害に遭われた遺族の方のお話を聞くことが出来ました。  
山内さんがおっしゃっていた一言一言がとても衝撃的でした。  
どうして犯人はこのようなことができたのだろうか。  
被害者の気持ちを考えることができなかつたのだろうか。  
自分の行動が、被害者の家族までも苦しめたのを理解しているのだろうか。  
どんな理由があっても、たった一つの大切な命を奪うことは絶対にあってはならないし、許すことができないと思いました。  
このような事件が二度と起こってはいけなくと強く思いました。  
誰にでも平等に与えられた命を大切にすることができれば、自分のことも、他人のことも大切にできる。  
誰もがそう考えることができれば、安全で安心な社会が作られると思います。  
そうならなければいけないと思いました。  
大切な命と言っても、生きていく上では辛いことや嫌なことも起こります。  
解決する方法が見つからずにもがき苦しむことも起きるかもしれません。  
しかし、それ以上に家族や仲間達との楽しくて、幸せな時間を過ごしたり、将来に向けて夢や希望を叶えるために努力したり、輝く時間が沢山含まれているはずですよ。  
だからこそ、その大切な命を奪った犯人の罪は重く、許すことさえすべきではない行為だと思います。  
今回のお話を聞いて、特に印象に残ったことがあります。  
それは被害者や遺族への接し方です。  
被害を受けた方達の気持ちを私達が理解できることは決してありません。  
ただし少しでも被害者や遺族の方の気持ちを理解しようと努力すること、寄り添うこと支えようとすることはできるはずですよ。  
辛く苦しい経験をして、一番悲しい気持ちを感じているのは、被害者や遺族です。  
だから私も、もし自分の周囲に悲しい思いをしている人がいたら、寄り添い、少しでも支えになることができる人間になりたいと思いました。  
何もできないかもしれないけれども、そこから目を背けずに、逃げることなく、隣にいてあげたいと思います。  
また出来事についての真実を確かめずに、マスコミ、ネットの情報だけで判断しては絶対にいけないということも改めて思いました。

噂話や憶測は、関係ない人達の誤解や思い込み、ひどい時には、個人的感情や利害関係までもがついて回ります。

そんな嘘の情報を流すことも、信じることさえも犯罪に加担しているのと同じだと思います。

自分が発信する言葉には、しっかりと責任を持つことが大事です。

自分が傷つくことがなくても被害者や遺族には、たった一言が凶器となって突き刺さるのだということを忘れてはいけません。

言葉だけではありません。

自分の気持ち、相手の気持ちを大切にできる心、思いやりの心を身につけなければならぬと思います。

そうすることによって、思い通りにいかず、我慢することが必要になるかもしれません。

しかし、そこを乗り越えることが相手を思いやり、自分自身を大切にすることに繋がるのだと思います。

私自身も、相手の気持ちを考えて行動できる人間になりたいと思います。

自分の行動で、誰かを傷つけたり悲しませたりせずに、悩んだり困ったりしている人に寄り添い、助けてあげられるようになりたいと思います。

最後に、山内さんのおかげで命の大切さを改めて考えることができました。

また今自分が考えている以上に家族との時間や、一日一日を楽しみながら大事に過ごしていかなければならぬと思いました。

今ある日常は決して当たり前なことではないので、感謝しながら過ごしていきたいと思います。

今回、山内さんに教えていただいたこと、お話を聞いて感じたことは絶対に忘れません。命の大切さを胸に刻んで、これからの生き方に活かしていきたいと思います。

本当にありがとうございました。